

「学びの革新」指導展開例

＜基本情報＞

- ◇教育課程 総合的な学習の時間
- ◇学年 中学部 第1学年(4名)
- ◇単元名 「ごみについて考えよう」
- ◇単元の目標 ○ ごみの出し方や処理について知り、興味・関心を持つことができる。
調べたことを発表することができる。
- ◇本時の目標
 - ・ ごみの再利用で作りたい小物を決めることができる。
 - ・ 作製の計画を立てたり、必要な物を調べたりすることができる。
- ◇生徒の実態 4名の生徒の内、生徒Aは知的障害、生徒B、C、Dは自閉症も併せ持っている。生徒AとCは言葉によるコミュニケーションが可能であり、生徒BとDは単語や2語程度の発語はあり支援を加えることで指導者からの問いかけに答えることができる。

＜学習過程(抜粋)＞

学習活動	指導上の留意点 (□課題 ○支援 ☆評価)				全体
	A	B	C	D	
2 前時の復習	前時にリサイクルで作りたい調べたものを発表する。				
	○言葉の難しいところだけモデルを見せ	○言葉だけでは理解が難しい時は絵カード	○自分から発言できるまで待つ。	○言葉だけでは理解が難しい時は絵カード	
4 本時の学習活動	作った物をどのように利用したいか発表できる。 ○板書を見て、作りたいものを決められるように促す。	友達の意見を聞いた後、作りたい物を最終的に決めることができる。 ○イラストカードを見て、作りたいものを決め発表できるように促す。	決定理由や作った物をどのように利用したいか発表できる。 ○板書を見て、作りたいものを決められるように促す。	指導者と一緒に作った物をどのように利用したいか発表することができる。 ○イラストカードを見て、作りたいものを選び、指導者と一緒に発表させる。	

前時にリサイクルで「作られた小物」を調べ各生徒が選んだ「作りたい小物」について、本時では各自が発表するとともに、お互いの「作りたい小物」の説明を聞き、改めて「作りたい小物」を最終決定する場面を取り入れています。生徒の中には、友だちの「作りたい小物」の名前や説明を聞いて考え、最終的に自分が「作りたい小物」を変更する者もいました。

日頃の活動では、生徒自身が一度決定した内容をもとに学習を展開していくことが多く、生徒自身も始めに決定した内容を変更することはなかなか難しい状況がある。本時では友だちの決定した小物の内容やその説明を聞き、自分の選んだ小物と比較してより作ってみたい小物を選ぶ場面や選んだ理由を発表する場面を設定することで、思考し判断し表現する学習活動となった。